

<b>Title</b>	Globalization と情報の伝達実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News： 2008 聖学院大学総合研究所 国際金融研究室主催 シンポジウム）
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.18-No.2, 2008.9 : 28-31
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4768">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4768</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2008 聖学院大学総合研究所  
国際金融研究室主催 シンポジウム  
Globalization と情報の伝達  
実施結果 アンケート集計結果の概要

日時 2008年5月23日(金) 18:00～20:20

場所 聖学院大学ヴェリタス館1階 教授会室

【プログラム】

挨拶

速水 優(前日本銀行総裁 聖学院大学全学教授  
国際金融研究室長)

講演

「Globalization と情報の重要性」

老川祥一(読売新聞東京本社 代表取締役社  
長・編集主幹)

質疑応答

眞野輝彦(聖学院大学大学院・総合研究所教  
授)

まとめ・閉会挨拶

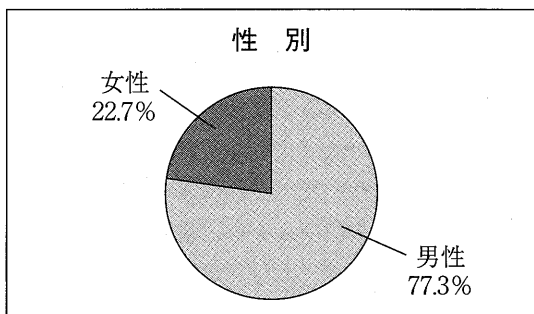
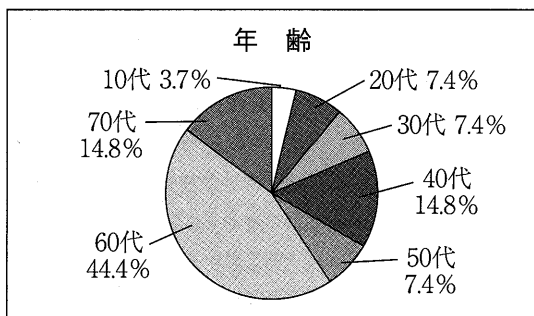
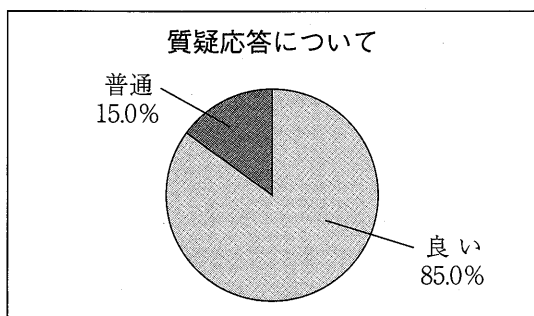
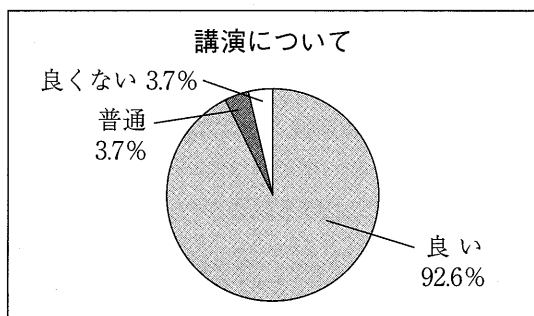
阿久戸光晴(聖学院大学学長)

【結果の概要】

- ・参加者は74名。内、アンケート回答者は27名。
- ・講演について、「良い」という意見が92%とな

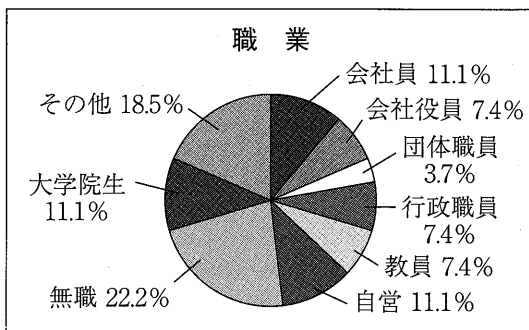
り、質疑応答についても「良い」が85%と高い評価を得た。

・自由意見は、「わかりやすくてたいへん参考になった」「時間が短い」など。

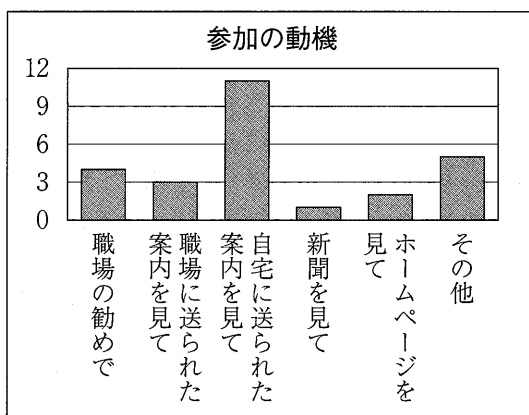


\*年齢について、60代が44%と最も多く、次に40代・70代ともに14%となった。

性別は男性77%、女性22%となった。



\*職業別には、「無職」22%、次に「会社員」「自営」「学生・院生」とともに11%となった。



老川祥一氏

＊参加の動機として、「自宅に送られた案内をみて」が最も多く、次に「職場の勧めで」となった。「その他」の内容は、「参加した研究会で知った」「教授からの情報」「図書館で知った」など。

## 自由意見

- ・参加させていただきありがとうございました。たいへん勉強になりました、これからも参加させてください。よろしくお願い申し上げます。
- ・お世話になりました。情報の大切さ、怖さなどいろいろとわかりました。またジャーナリズムに対する熱意もよく伝わってきました。ありがとうございました。
- ・情報を漫然と受け入れるのではなく、常に批判の目をもって判断していくことが必要。姜尚中は“生”という現実の出来事を判断するには“干物”という過去の出来事（情報）を勉強または把握することが必要であるといっているが同感である。貴重なシンポジウムに参加でき、ありがとうございました。＊老川社長は聖学院（駒込）の中・高出身者であられるか。小生も聖学院のとなりの本郷学園で中学を過ごした。1級上で昭和28年中学入学であり、社長には親しみを感じる。



会場の様子

- ・質問は書きましたが時間がないのでコメントはいただけないと思っていましたが、お答えをいただきありがとうございます。わかりやすく説明している中で、メディアにいる誇り、意気を感じとりました。日本のレベルアップのためにさらに尽力していただきたくお願い申し上げます。
- ・小泉首相登場の経緯（自民党がこわれていたから登場できた、など）はたいへん興味深かった。質疑応答における説明がたいへん有益だった。
- ・報道の現場に携わってきた立場と経験からのお話にはたいへん説得があった。「情報」を認識する力、メディアリテラシーが今こそ問われる時代ではないだろうか。グローバル化にあってはメディアと政治の関係、テロとの戦い、情報操作がキーワードになっていくものと思われる。
- ・講演についてはたいへんわかりやすく参考になりました。現在ボランティア活動をしています。本日のお話の内容は今後の参考にさせていただきます。質疑応答も幅広い分野でのQ & Aで参考になった。
- ・新聞という情報機関を通してぜひとりあげて欲しいことがあります。現在世界的な食糧危機にあって飢えに苦しむ子供たちを見るにつけ、食料となるべきものを車やその他の機械を動かす燃料にしていることに大きな危機を感じます。また、中国のギョーザ問題をきっかけに食の安全を考えていかなければならないと思います。食べることは生きることの根本であり、楽しみでもあるからです。そこで私はとても疑問に思うのですが、私は茨城の農家で育ちました。しかし現在、農家を継ぐ家は全くありません。広大な田畑をただ遊ばせておくだけなのです。これを農業をしたいという人に国で買い上げて提供してはどうなのでしょう。新聞で取り上げて欲しいのです。
- ・幅広い視点からの問題分析、有益でした。

- ・自民党議員の話を聞いているようでした。町人の新聞だった読売が、いまや市民から一番遠い新聞なのは残念です。情報を「持つ」者が批判精神を失うことは一番危険なことだと感じます。
- ・引き続き出掛けたいのでよろしく。
- ・時間が短い。3時間程は欲しい。講演・質疑応答の時間をもっと多くとって欲しい。